

5. 長寿命化修繕計画の管理シナリオ

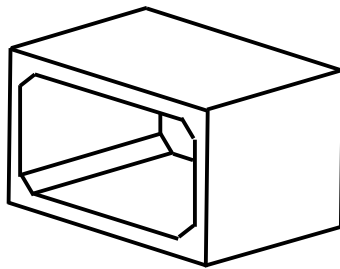
橋梁の管理は、橋の規模によって分類します。

(1) 橋長 4m以上の橋梁：予防保全型または事後保全型

予防保全型による維持管理コストと、事後保全型による維持管理コストを比較し、安価な方を採用します。

(2) 橋長 4m未満の橋：ボックスカルバート架替え型

ボックスカルバート架替え型では、健全性の区分が「IV：緊急措置段階（支障が生じており、緊急に措置を講ずるべき状態）」になった時点でボックスカルバートに架替えを行います。



ボックスカルバート

6. 対策優先度の考え方

利用者への安全性の観点から、橋梁の劣化状況を最優先に検討を行います。

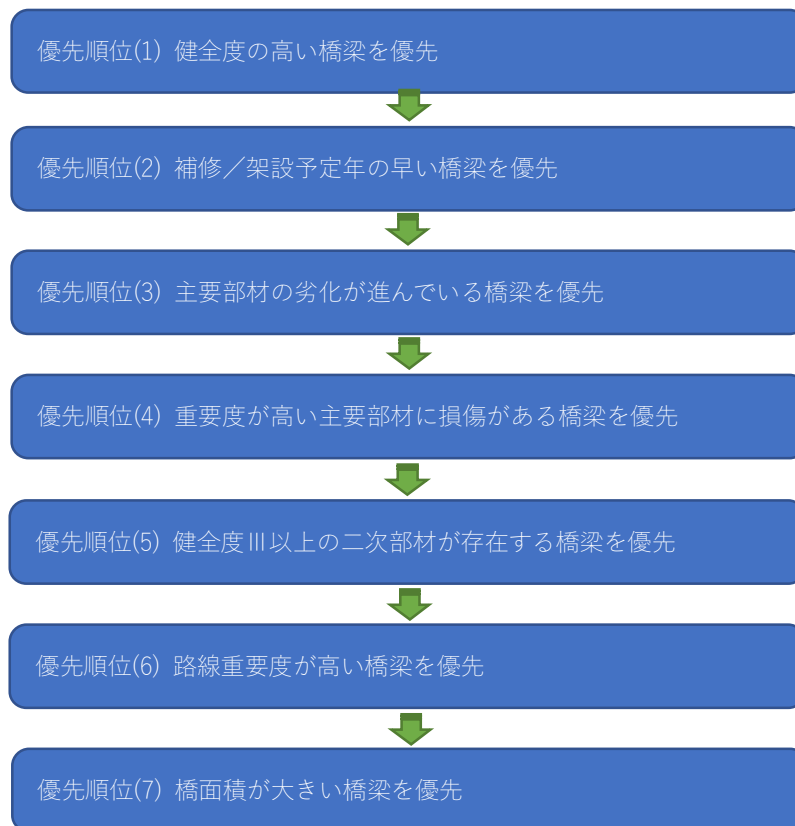


図5 優先順の決定のフロー